

## TOUR DE HOKKAIDO 2007 NEWS

第4ステージ 2007年9月15日発行

## 個人区間順位

順位	名前	チーム	タイム
1	新城 幸也	NIPPO梅丹	4:15:21
2	宮澤 崇史	NIPPO梅丹	+ 0:28
3	飯島 誠	プリチストン・アンカー	+ 0:28
4	角 令央奈	鹿屋体育大学	+ 0:28
5	大庭 伸也	日本大学	+ 0:28
6	松田 究	早稲田大学	+ 0:28

## 個人ポイント賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	宮澤 崇史	NIPPO梅丹	64
2	ミッチェル・ドッカー	オーストラリア	51
3	ヘンリ・ヴェルネル	ドイツ	50
4	飯島 誠	プリチストン・アンカー	46
5	新城 幸也	NIPPO梅丹	45
6	角 令央奈	鹿屋体育大学	31

## 団体総合順位

順位	チーム名	タイム
1	ミヤタ	33:43:39
2	NIPPO梅丹	+1:10
3	オーストラリア	+1:38
4	プリチストン・アンカー	+10:51
5	イラン	+21:16
6	シマノ	+23:48

## 個人総合時間順位

順位	名前	チーム	タイム
1	新城 幸也	NIPPO梅丹	11:13:37
2	宮澤 崇史	NIPPO梅丹	+ 0:27
3	ヘンリ・ヴェルネル	ドイツ	+ 0:30
4	飯島 誠	プリチストン・アンカー	+ 0:37
5	角 令央奈	鹿屋体育大学	+ 0:41
6	土井 雪広	シマノ	+ 0:43

## 個人山岳賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	土井 雪広	シマノ	27
2	増田 成幸	ミヤタ	24
3	メディ・ソウラビ	イラン	10
4	スチュアート・ショウ	オーストラリア	7
5	グオン・ヒョソク	韓国	6
6	リュギホン	韓国	6

## テキストライブ配信中!

ツール・ド・北海道のレースの様子をテキストライブで配信中。携帯からも閲覧できます。



PC: <http://www.cyclingtime.com>  
携帯: <http://mobile.cyclingtime.com>



## 4th Stage 新城幸也 (NIPPO 梅丹本舗) が逃げ切り、総合リーダーに

第4ステージは長万部町役場前をスタート、伊達市歴史の杜がゴールとなる164km。2つのKOM(山岳賞ポイント)以外にも複数のアップダウンが続く山岳コースだ。

正式スタート直後にアタック合戦が繰り広げられるが、なかなか逃げが決まらない。上りが始まり、集団から個人総合9位のメディ・ソウラビ(イラン)を含む7名が抜け出す。リーダー擁するオーストラリアが逃げを容認する形で7人とのタイム差が開く。この時点でソウラビが暫定リーダーの座を得ていた。

最初のKOMへ向かう上りで山岳賞ジャージを着た土井雪広(シマノ)がバイク交換をする。1回目のKOMは7人が先行したまま通過した。

2つ目のKOM、ウィンザーホテルへの上りに入って先行する7人を吸収し、土



単独で逃げ切って個人総合時間トップに立った日本チャンピオンの新城幸也 (NIPPO 梅丹)

井がアタック。それに反応できたのは個人総合2位のヘンリ・ヴェルネル(ドイツ)、日本チャンピオン新城幸也(NIPPO 梅丹)、ダレン・ラプトーン(オーストラリア)、グオン・ヒョソク(韓国)などだった。ここでリーダージャージを着たミッチェル・ドッカー(オーストラリア)

は遅れてしまった。

KOMは土井がトップで通過。2位には山岳賞でも2位につけている増田成幸(ミヤタ)。土井は山岳賞ジャージをキープしたが、増田に対して決定的な差をつけることはできなかった。

下りに入り新城がアタック。ひとり抜け出し、リードを奪う。後続も追うがタイム差は縮まらない。新城はそのまま2回目のホットスポットをトップで通過。後続集団との差は45秒以上開くことはなかったが、縮まりもしなかった。

結局、新城は約30kmをひとりで逃げ切り、1位でフィニッシュ。28秒遅れの後続集団は、新城のチームメイト宮澤崇史がトップで入り2位となった。

この結果、新城が個人総合時間賞でトップに立ち、日本チャンピオンの実力を示す走りを見せつけた。

## Next Stage 強いNIPPOが帰ってきた。明日は今大会最難関ステージに挑む

今日も先頭集団が23人という厳しいステージになったが、NIPPO 梅丹がチーム力を発揮して、ワンツーフイニッシュを決めた。個人総合時間賞も1位と2位に浮上し、さらに宮澤崇史がポイント賞ジャージも獲得した。北海道に大門監督率いる“強いNIPPO”が帰ってきた。

そしてこのステージもミヤタの鈴木真理、増田成幸、鈴木譲がトップ集団でゴールし、ついにミヤタが団体総合成績でトップに立った。

第5ステージは室蘭市入江運動公園前をスタートし、札幌市真駒内屋外競技場前にフィニッシュする172kmで争われる。最終日、モエレ沼でのクリテリ

ウムは大きなタイム差をつけることが難しいため、総合順位をひっくり返す最後のチャンスとなる。それが今年最難関のこのステージ。大会を通してもっとも標高が高いオロフレ峠を越えた後、さらに3つの峠が待っている。

個人総合時間賞トップの新城幸也(NIPPO 梅丹)と他のチームのライバルたちとのタイム差は30秒以上。このステージで、その差を守ることができれば、NIPPOとしては6度目、新城は初の優勝がほぼ確実となる。

一方、山岳賞争いは最後の戦いとなる。トップは昨年このジャージを獲得した土井雪広(シマノ)。それを増田が3

ポイント差で追っているだけに、山岳賞の行方はまだわからない。山岳賞争いも目が離せない。



NIPPO コーポレーションの大応援団との記念撮影に応じる新城幸也と宮澤崇史 (NIPPO 梅丹)



TOUR DE HOKKAIDO

<http://www.tour-de-hokkaido.or.jp>